

## 第 1 章 基本構想

## 第1節 時代潮流の認識

### 1 社会の成熟化

#### (価値観や生活様式の多様化)

社会が成熟化すると並行して、ボランティア活動への参加、自然環境への意識の高まりなど、人々の価値観はものの豊かさより、心の豊かさを重視する方向に変化しています。

また、元気で経験豊かな高齢者の社会参加の進展など、経済社会の各方面において質や熟度の高さを重視する潮流を生み出しています。

このような社会の成熟化に伴い、今後の道路の整備においては、地域固有の文化や生活の豊かさを重視する質の高い整備へ配慮する必要があります。

#### (少子・高齢社会、人口減少社会)

我が国の出生率は低下を続け、総人口が均衡を保つために必要な水準を大きく下回っています。

一方、生活環境の向上や医療技術の進歩などによって世界的な最長寿国となっており、確実に高齢社会を迎えています。

このため、安全で安心できる質の高い暮らしを実現するためにも、道路の整備においては、誰もが安全で、安心して利用できる環境づくりへ配慮する必要があります。

#### (人間の尊重)

性別や、年齢、ハンディキャップなどにとらわれず、誰もが自分らしく生き、様々な生き方を相互に認め合い、個人の可能性を發揮して、自分の生き方を自らの選択と責任において決めていくことができるようハード・ソフト両面の取り組みが求められています。

このため、物心両面のバリアフリーの考えをさらに進め、「ユニバーサルデザイン」と「心のユニバーサルデザイン」への取り組みが重要となります。

ユニバーサルデザイン - できる限り最大限すべての人に利用可能であるように、製品や建物、空間をデザインすること。

#### (地方分権の進展)

地方分権が進展しつつある中、地方自治体の自立と責任のもとに、地域の特性を活かした魅力ある地域づくりを一層推進させていく必要があります。

このため、今後の道路整備においては、多くの局面で住民参加のしくみを積極的に導入し、参画・協働の体制を構築するとともに、国と地方そして民間の役割分担を見直して進めていく必要があります。

## 2 環境との共生

酸性雨・地球温暖化など地球規模の環境問題、自然環境の保全、貴重な動植物の保護など、環境に対する負荷の低減は、世界的規模で取り組まなければならない課題となっています。

このため、循環型社会の観点から既存の道路ストックを有効活用するなど、環境への負荷の少ない道路の整備を進めていく必要があります。

道路ストック - 道路の整備により保有した道路施設。既存の道路施設。

## 3 大交流・大競争の時代

企業や市民の活動範囲は、生産・消費活動のグローバル（国際）化や高速交通体系の整備等により飛躍的に拡大しているため、今後の道路の整備においては、広域的な交流を生み出し、地域間競争を高めるための視点が求められています。

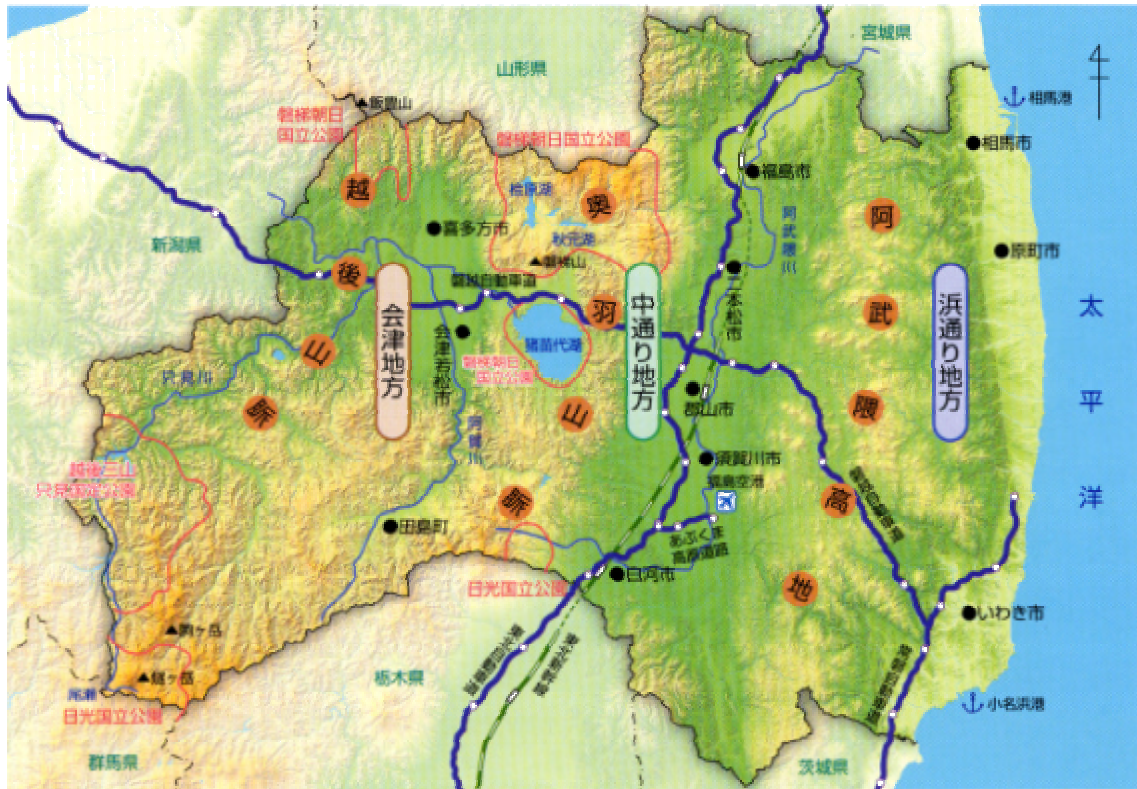
このため、利用する立場に立った広域的な拠点を連携するネットワークの整備等、地域を活性化させるための重点的、戦略的な施策が必要です。

## 4 情報の進展

IT（情報通信技術）の急速な進展は、社会のあり方そのものも変化させ、社会生活や産業活動などへ大きな影響を与えており、高度情報社会への迅速かつ的確な対応が求められています。

このため、今後の道路の整備や管理においては、ITを活用した情報提供の充実・管理の高度化など、利便性の高い情報提供のしくみづくりを推進していく必要があります。

## 第2節 本県の県土構造と特性



この地図は、国土院の「数値地形250mメッシュ(標高)日本I」を使用しています。

資料 うつくしま建設プラン2.1 道路版

### 浜通り地方

浜通り地方は、阿武隈高地と太平洋に面した地域で、河川は阿武隈高地を源としてすべて太平洋にそそいでいます。集落はこれら流域全体に沿って発達し、阿武隈高地では山の恵みを、また太平洋に面した温暖な平地では、豊かな海の恵みを受け、自然と共生したくらしが営まれています。

### 中通り地方

中通りは、奥羽山脈と阿武隈高地に挟まれ、南から縦走する阿武隈川に沿った盆地に、福島市、郡山市、白河市のような都市が発達してきました。新幹線、高速道路、空港等の交通基盤が発達し、仙台市や首都圏等との間に大きな人と物の流れが生まれています。

### 会津地方

会津地方は奥羽山脈と越後山脈の間の地域で、磐梯山、猪苗代湖や尾瀬に代表される美しい自然に恵まれています。人々は主に会津盆地や、阿賀野川水系の河川流域に沿った低平地に農村集落を形成してきました。会津地方は積雪が多いことから建築形態や屋敷林にも工夫が見られる等、美しくも厳しい自然の中で独特の豊かな生活が育まれています。

資料 うつくしま建設プラン2.1 道路版

## 1 豊かな自然環境

本県は、全国第3位の広大な面積を有しており、その県土の7割を豊かな森林が占めています。

また、広大な県土に、標高2,000m級の山々、総延長4,844kmに及ぶ主要河川、猪苗代湖をはじめとする湖沼、160kmに及ぶ海岸線など豊かで多様な自然を有しています。

さらに、磐梯朝日国立公園の裏磐梯地区や日光国立公園の尾瀬地区など、世界にも誇れる優れた景観や自然環境を有しています。

このため、本県は、森・川・海を一体としてとらえる「循環の理念」に基づいた地域づくりを自らの手で展開できる可能性を有しています。

### 首都圏 1都 3県分が、まるごと入る

県土面積 … 13,782,48km<sup>2</sup> …… 全国3位

(一目でわかる福島県の指標 2002・福島県)

可住地面積 … 4,218,02km<sup>2</sup> …… 全国3位

(一目でわかる福島県の指標 2002・福島県)

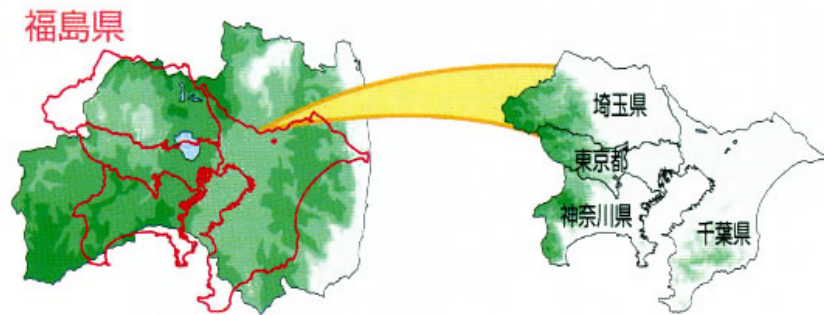


図 広大な福島県の面積

資料 福島県の道路2001

#### 主な山岳

	山岳	標高
1	燧ヶ岳	2,356m
2	駒ヶ岳	2,133m
3	飯豊山	2,105m

(平成13年度県勢要覧)

#### 主な河川

	河川	延長
1	阿武隈川	181km
2	只見川	145km
3	阿賀川	145km

(平成13年度県勢要覧)

#### 主な湖沼

	湖沼	面積
1	猪苗代湖	103.32km <sup>2</sup>
2	桧原湖	10.7km <sup>2</sup>
3	秋元湖	3.64km <sup>2</sup>

(平成13年度県勢要覧)

## 2 特色ある県土構造

本県は、南北に縦断する阿武隈高地・奥羽山脈によって、気候・風土の異なる、浜通り、中通り、会津の3地方に区分されています。

また、県内各地に都市が分散した特色ある多極分散型の県土構造となっており、その中で都市と農山村が、機能分担と連携によって、それぞれの特色を生かしながら、7つの特色ある生活圏をかたちづいています。

このため、三本の縦軸と三本の横軸の合計六本の連携軸の結節点を生活圏としてとらえ、七つの生活圏それぞれがその特色を生かしながら相互の連携を強化し、県全体としての魅力を高めていくことが重要となっています。

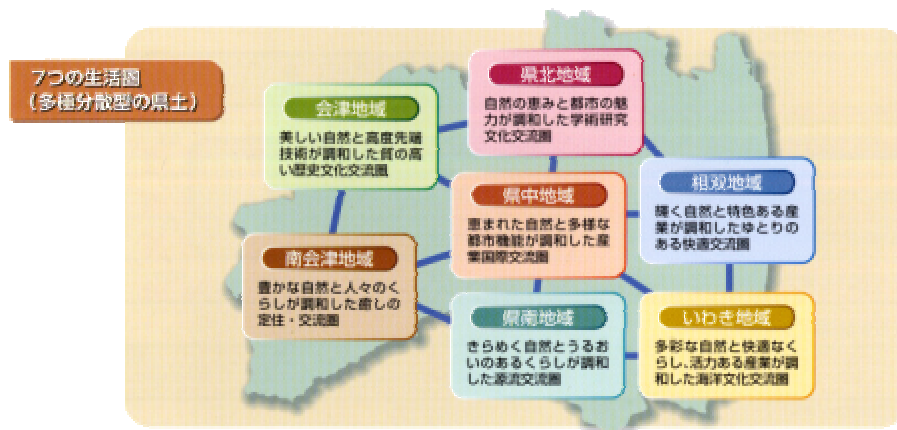


図 7つの生活圏の位置

資料 うつくしま建設プラン2.1 道路版



図 6本の連携軸

資料 うつくしま建設プラン2.1 道路版